



197号
Handa by youin
dayori

半田病院だより

令和3年度 半田市立半田病院総合防災訓練



新 年 の

ご 挨拶

病院長 渡 邊 和 彦



新年明けましておめでとうございます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の対応に追われた1年でした。3月の院内クラスターの発生、PCR検査（LAMP法）、ワクチンの集団接種、常滑市民病院での共同診療、発熱外来等、病院職員一丸となって対応にあたりました。クラスター発生時には、患者様および地域住民の方々は勿論のこと、近隣の医療機関にもご迷惑をお掛けしました。幸いにも第5波は収束し、今後更なる感染の波が襲来しないことを願うばかりでございます（12月執筆時）。

さて、本年は令和7年春の新病院開院を目指す上で大きな節目となる年であります。現在、実施設計も順調に進んでおり、夏頃から土地の造成工事を開始し、冬には建物本体の工事に着手する予定でございます。「良質な医療の提供を通じて、地域社会に貢献します」という理念のもと、知多半島医療圏を支える新病院の実現に向け、職員一丸となり、取り組んで参ります。

また、常滑市民病院との経営統合に向け、各部門での人事交流を進めております。特に新型コロナウイルス感染症が蔓延している時期には、将来の役割分担を見据え、当院から医師・看護師を常滑市民病院に派遣し、共同診療を実施いたしました。限られた人員・医療環境の中で地域医療を守るために、救急医療と感染症医療の両立を目指し、両病院で密接な連携を行ったことは、経営統合に向けて、医療の機能分担の重要性を確認できる良い機会となりました。今後も引き続き、地域住民の方々に安心して医療を受けていただくため更なる努力をして参る所存でございます。

新年を迎え、知多半島医療圏における唯一の三次救急医療機関としての使命を全うすべく頑張ってお参りますので、皆様方のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和4年1月

心臓リハビリテーション指導士が 増えました

リハビリテーション科技師長 畔上 和久

心臓リハビリテーション指導士とは、包括的な心臓リハビリの普及を目的として、日本心臓リハビリテーション学会によって平成12年に発足された認定制度です。

近年、心臓手術の技術向上など、日々医療が進歩していることにより、昔に比べて心臓病患者の迅速な治療や早期離床、早期退院が可能となりました。心臓リハビリでは、心臓病患者さんに対して、運動療法や食事療法、禁煙指導等を行なうことで、動脈硬化のリスクを減らしたり、心不全の増悪を防ぎ、結果として、再入院の予防に繋がってきています。

そこで、運動療法、食事療法、禁煙指導等を含めた包括的な心臓リハビリをおこなうため、医療専門職間の連携や共同作業（チーム医療）が必要となり、心臓リハビリテーション指導士が重要な役割を担っています。

当院のリハビリテーション科には、すでに心臓リハビリテーション指導士が2名おり、今回2名合格し、4名体制で心臓リハビリを盛り上げていきます。心臓病患者さんで、心臓リハビリに興味がある方はリハビリテーション科まで連絡をお願いします。

新指導士の紹介

心臓リハビリテーション指導士を取得でき、とても嬉しく思っております。心臓の病気は現代においてみなさんに起こりうる病気となっています。少しでも不安や悩みなどがありましたらいっしょに考えていきましょう。今後も心臓リハチームの一員として頑張っていきます。

(理学療法士 若林 翼)



心臓リハビリテーション指導士として患者さんの生活上での不安や、悩みについて一緒に考えていきたいと思っております。今後も心臓リハチームの一員として頑張っていきます。

(理学療法士 石黒 博也)



よろしくお願ひします



半田病院は地域中核災害拠点病院です



管理課 稲葉 孝志

現在、愛知県下には2カ所の基幹災害拠点病院と22カ所の地域中核災害拠点病院、11カ所の地域災害拠点病院があります。半田病院は地域中核災害拠点病院の指定を受けており、知多半島医療圏の災害対策の正に中核を担っているといえます。

災害拠点病院には、その運営体制や施設・設備等において複数の要件が設けられています。今回はその要件の一部と、それに対する半田病院の対応について紹介します。

運営体制

- ・災害派遣医療チーム（DMAT）を保有し、その派遣体制があること。また災害発生時に他の医療機関のDMATや医療チームの支援を受け入れる体制を整えておくこと。
- ・救命救急センター又は第二次救急医療機関であること。



半田病院では現在3隊のDMATが在籍しています。また、DMAT車両、ドクターカーといった緊急車両も配備しており、災害時にはいつでも出動できる体制が整っています。

施設

- ・通常時の6割程度の発電容量のある自家発電機を保有し、3日分程度の備蓄燃料を確保しておくこと。
- ・災害時に少なくとも3日分の病院の機能を維持するための水を確保すること。具体的には、少なくとも3日分の容量の受水槽を保有しておくこと又は停電時にも使用可能な地下水利用のための設備（井戸設備を含む。）を整備しておくことが望ましい。ただし、優先的な給水協定の締結等により必要な水を確保することとしても差し支えないこと。



平成27年度に燃料補給なしでも3日間の病院機能を維持できる屋外発電設備を配備しました。

（左）

貯水槽では常時3日分程度の飲用可能な水が貯水されています。

（右）

設備

- ・衛星電話を保有し、衛星回線インターネットが利用できる環境を整備すること。また、複数の通信手段を保有していることが望ましい。



半田病院は衛星電話を3台保有しており、災害時でも常に通信回線を確保することが出来ます。その他災害時優先携帯電話、医師会防災無線、半田市防災無線を1台ずつ保有しております。

半田市立半田病院総合防災訓練



令和3年11月20日、総合防災訓練を行いました。

当院では、いざ災害が起きた時に困らない様にするために、年に一度院内全部署を対象とした防災訓練を実施しており、南海トラフ地震等の大規模地震発生時に、「半田病院防災マニュアル・病院業務継続計画（BCP）」に基づく災害医療活動が迅速かつ適切に行われるよう習熟度と防災意識の向上を図っています。

例年、発災後の災害対策本部の立ち上げ及び運営、各部署からの被害状況報告、トリアージエリアの設営、患者トリアージ及びトリアージカード記載、搬送エリアから外部への患者搬送などを行っています。

本年度はさらに重大な被害を想定し、半田病院としては初めての病院避難（※）の訓練を行いました。

また、半田市の防災訓練に合わせて消防署と連携し、避難所及び救護所から病院に送られてきた患者を、ヘリコプターで輸送する訓練も同時に行いました。

より多くの職員が防災に関心を持ち、何度も繰り返し訓練を行って習熟度を上げることで、大規模災害時でも適切な災害医療活動ができると思いますので、防災訓練を継続して行ってまいります。

※病院避難とは…被害が甚大な場合に、診療継続を断念して入院患者さんを、すみやかに他院等に避難させること。



新任医師紹介

10月からの新メンバーを紹介します。

小児科

加藤 雅弘

実家が東海市ということもあり、地元の知多半島のために働けることを嬉しく思っています。よろしくお願いいたします。



外科

緒方 諒仁

初めまして。豊田厚生病院より半年間お世話になります。ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、よろしくお願いいたします。



循環器内科

鈴木 大輝

10月より赴任となりました。循環器内科の鈴木です。よろしくお願いいたします。



消化器内科

澤田 悠太郎

10月から半年間半田病院で勤務させていただきます。短い間ですが、地域医療に貢献すべく頑張ります。よろしくお願いいたします。



病院のタブレット端末で面会できるようになりました!

コロナ禍の中、面会禁止のため、患者さんやご家族の方にはご不自由をおかしています。

当院では6月からタブレット端末を使用してのモバイル面会を開始しています。患者さんご家族の顔を見ることで、普段と違う表情が見えたり、元気につながっています。少しでも患者さん、ご家族の安心につながるようご活用ください。

モバイル 面会

面会者：固定した家族 2名まで
面会時間：1回5分 平日14時～16時までの予約のみ
面会間隔：2回/週まで
ご予約は直接ステーションに声をかけてください。
電話予約：各病棟 平日10時～16時

〈お見舞いメールを送ることができるようになりました!〉

入院中の患者さんにお見舞いのメッセージを送ることができます。送っていただいたメールを印刷し、患者さんに看護師の手でお渡しします。詳細はホームページをご確認ください。 <https://www.handa-hosp.jp/hospitalization/omimaimail/>

病院だより

新 病院コラム

その7



管理課 青木 賢治

あけましておめでとうございます。いよいよ令和4年(2022年)がスタートしました。

「いよいよ」と書きましたが、今年は、半田病院にとって、歴史に残る年、そして非常に重要な年になります。

これまでお伝えしてきましたように、令和7年(2025年)春の新病院開院を目指して事業を進めています。そのため、今年の夏には、敷地の中に大きな建設機械が何台も入って、斜面が崩れないように擁壁を造ったり、建物を建てるために土地の段差を減らして形を整えたりする造成工事に、秋には、病院建物本体の建設工事にとりかかります。これらの工事にかかる期間と、建物が完成した後の医療機器の搬入や引っ越しなどの期間を考えると、これらはどうしても遅らせられない重要なポイントになります。

現在は、新病院が移転する半田運動公園東側の建設地も右の写真のような状況ですが、3年後には、下の鳥観図(パース)のような状態になっています。

皆さん、楽しみにしててください。



完成予想図

半田市立半田病院 広報部会 (事務局 管理課)

〒475-8599 半田市東洋町2-29 ☎(0569)22-9881 FAX(0569)24-3253
Eメール byouin@city.handa.lg.jp URL <https://www.handa-hosp.jp>



ホームページ



ユーチューブ